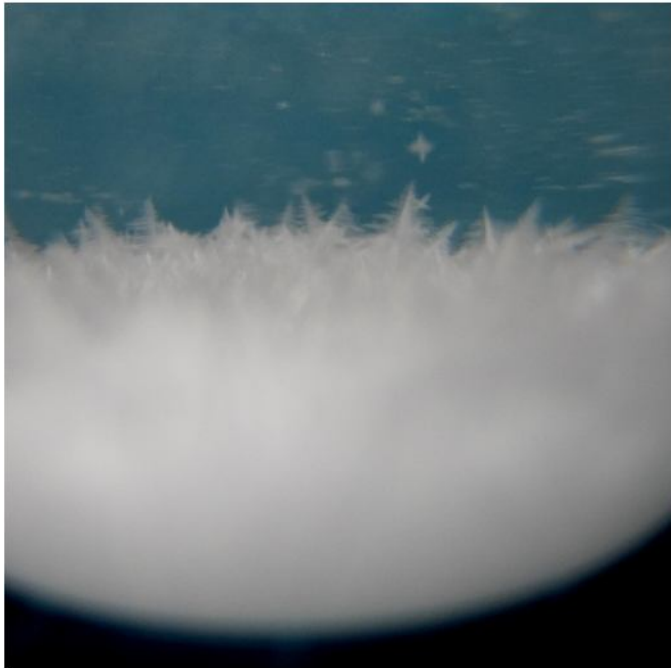


「テンポ・ドロップを作る (6)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

乳酸菌飲料の小さなPETボトルの空ビンを利用した、手作りのテンポ・ドロップは、順調に結晶を成長させていった。見ている間に、どんどん結晶が大きくなってゆく様子が面白い。



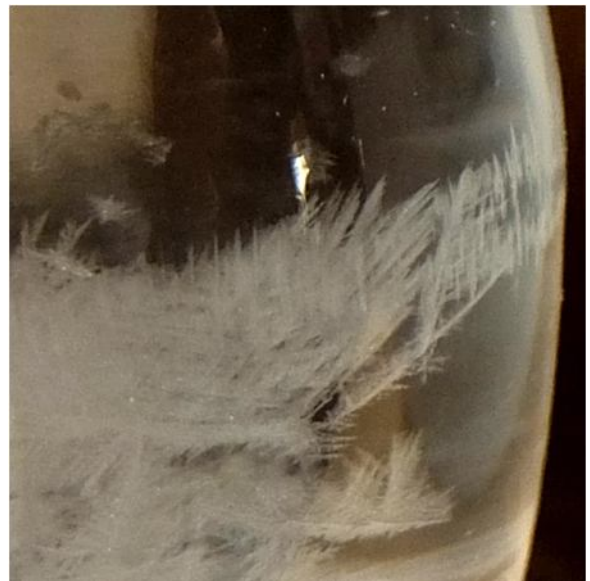
ビンの底部にも針のような結晶が、たくさん見える。まるで白い針葉樹林に雪が降っているようだ。



溶液が冷えてくると、たくさんの結晶がキラキラと降ってくる。非常にゆっくりした速度なので、この美しい結晶をしばらく楽しめる。



できあがった「手作りテンポ・ドロップ」を、室温で数日間放置すると完成だ。本物（販売品）と比較すると、そっくりの結晶ができていた。成功だ！



写真は、手作りテンポ・ドロップのできた結晶の拡大である。実に美しい。小型PETボトル (LG21 乳酸菌飲料) で作ったテンポ・ドロップの利点は、もう一度お湯につけて再溶解すると、何度でも再結晶の過程を観察できることだ。結晶の多さも、エタノールや精製水の量 (数滴の差) で微調整が可能だ。硫酸銅を使うと、青いテンポ・ドロップも作れることがわかった。容器もいろいろ試してみたい。いつかは、授業でも試してみたいと思っている。